

# 産地戦略

実施主体 阿波市みどりの食料システム推進協議会  
 都道府県 徳島県  
 対象地域 阿波市  
 対象品目 促成いちご（施設）

実施期間 令和7～11年度



## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

阿波市地域は、温暖な気候と豊富な日照量を活かした施設園芸（促成トマト、促成ナス、促成イチゴ等）が盛んである。これまで、化学農薬に頼らない技術として天敵を活用した防除技術の導入を試みてきたが、IPM技術導入には専門的な知識や経験値が必要であり、本技術に対する理解不足や費用面などから、産地として部分的な普及に留まり、本格的な普及に至っていない。このような中、薬剤抵抗性を持つ難防除病害虫の発生による収量及び品質の低下、農業生産費の高止まりが経営をさらに圧迫しており、産地として効果的な防除技術、生産コストの削減、高齢化する産地の中で省力的な新技術の活用が喫緊の課題である。

そこで、ハダニ類やうどんこ病の防除効果のあるUV-Bやアザミウマ類の防除効果のある赤色LED等の新技術を活用し、化学農薬の低減、省力的な病害虫防除体系を検討する。また、防虫ネット及び防草シートにより害虫の侵入を防止するとともに、地域でまだ普及が進んでいないバンカーシート（天敵）の活用を実証し、総合的な防除技術を検証する。さらに、遮熱により病気の発生や葉焼けを防止し、農薬散布回数や葉かき作業等を軽減させるため、育苗期の高温対策の検証等を進め、地域課題を打開する方策を実証する。加えて、環境に配慮した農業を実践する生産者を支援する消費者意識の醸成に努める。

## 現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	収穫		育苗				定植				収穫		
技術名	必要に応じて化学的防除									必要に応じて化学的防除			

## グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	収穫		育苗				定植				収穫		
技術名	天敵に優しい防除						防除	天敵放飼		天敵に優しい防除			
	物理的防除						UV-B、赤色LEDによる物理的防除						

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	2.8	▶ 3.1	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.3	▶ 1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.3	▶ 1	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.33	▶ 1	

## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

### 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 天敵資材を活用したIPM 紫外光照射等の物理的防除	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
省力	遮熱していないハウス下での栽培	▶ 遮熱・遮光シートを活用した育苗	農作業時間・労力の軽減

### 〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回） ※殺ダニ剤	6	▶ 2	ダニオーテ 2 → 1 回、グレーシア 2 → 1 回に削減 アフーム 1 → 0 回、ニッソラン 1 → 0 回に削減
省力	農作業時間（時間）	2.5	▶ 2.2	10 a 当たり作業時間

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

### グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

実証展示ほ等によって得られた成果を「天敵を活用した防除暦」（栽培マニュアル）にまとめ、講習会や現地巡回等を通して継続的な実践を進める

### 関係者の役割

関係者名	農業支援センター（県）	農業協同組合	市役所	生産者
役割	技術指導、事業のコーディネート	農業者との調整、技術波及	市計画に基づく農業の推進	新しい栽培体系の実践

### 生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

環境に優しい栽培技術を紹介するパネルを作成し、いちごの食べ比べ試食会にて消費者を集め、広く周知した。また、消費者が多く集まる機会を通して、環境に配慮した、生産者の技術や努力を紹介し、環境に優しい農産物に関するアンケート調査を実施した。

### その他